

アフターケア通信

ご本尊を受けとられた貴方へ

ほうおんこう

報恩講

【11月号】

【報恩講とは】

「真宗門徒の一年は、報恩講に始まり報恩講に終わる」と教えられています。各宗派を開かれた方々の御正当の忌日（祥月命日）にお勤まりがあり、御正忌（ごしょうぎ）といひます。真宗においては、これを「報恩講」としてお勤めします。

つまり、宗祖である親鸞聖人の御恩を憶念し、その御恩に報いる集い（お講）が報恩講なのです。



大瀬戸・西浜地区の在家報恩講の様子

【人生の闇を造るもの】

以前、ご門徒のあるおばあさんがポツリと、「お念仏がなかったら、この世は闇ばい」とつぶやいたことがありました。私たちは、人生が自分の思い通りにいかない時に、生きる希望と意欲をなくしてしまいがちです。そして、人生に幾つもの闇を造っていくのです。この身は行き詰まらないのですが、自分の思いが闇を造って行き詰まってしまうのです。

【闇を開くもの】

聖人が教えてくださるお念仏の人生とは、どんな苦しみや悲しみがあろうと、それは私を育てる大切なご縁であると拝める人になることです。この苦しみや悲しみがあったからこそ、仏法にであうことができたと思えるのであります。

私の身の全体を「生かそう」とする用（はたら）きを通して、如来の本願の用きを感じられれば、その他力の用きをいただきながら自ら苦を造り、闇を深めている自分に気付くのでしょうか。

一年で一番大切な報恩講のご法要ですから、心に懸けてお寺に参詣し、各家庭でもお内仏を特に清浄にした上で、普段とは違う荘厳（しょうごん）をして、家庭でお勤め・お念仏いたしましょう。お荘厳の仕方は、お手次のご住職にお尋ね下さい。

今月の門徒さん

十二月になると、二・三軒の家族全員が集まり、賑やかで温か味のある在家報恩講が勤まります。

まずは、私の父が先導してお正信偈を唱えます。お勤めが終わり、ご住職の法話、総代長さんのお話しと続き、暫し談話の後、お齋（とき）を戴きます。

白いご飯と二、三の具が入ったお味噌汁、それに漬物、もう一つ出されたのが、卵酒これがなかなか好評でした。

今もお正信偈を上げる度に、その時の皆のお称名の声、笑顔が甦って参ります。

いわもと たかひさ

岩本 高久さん

（第3組 西教寺）



真宗大谷派 長崎教区教化委員会



お内仏のお荘厳 (おかざり) について

※お荘厳とは浄土を形に表したお内仏に「備わっている」ものなので「お供えする」ではなく「お備えする」と書きます。



お華束 (おけそく)

【落雁を代用したもの】

お華束…小餅を重ね、束にしたもので杉盛・須弥盛と呼ばれる二通りの盛り方があります。平常時には用いませんが報恩講・彼岸・年忌法要等の仏事の際にお備えします。ご家庭でお餅が準備できない場合は落雁などを代用されても良いと思います。仏華同様お内仏のお荘厳(おかざり)の一つです。



華瓶(けびょう)

華瓶…浄水をお備えする水瓶のことで、お花は挿さず、中の水がいつでも清浄であるように密などの青葉を挿します。ご浄土の清らかな水が流れるがごとく、教えが私たちのもとへとはたらい下さっています。また、湯のみ、コップなどにお茶やお水、お酒を上げることはいたしません。

お仏供…「お仏飯」ともいわれ、ご飯を盛槽(丸い筒状の物)で形(蓮の実をあらわす)を整え、「仏器」に盛ってご本尊の前に一対お備えします。(上卓にのらない場合はご本尊の前に仏器台を置いて備えます。)毎日、朝のおつとめの後にお備えし、昼にお下げするのが正式です。また、お脇掛が親鸞聖人と蓮如上人の御影の場合はそれぞれに一つお備えします。



お仏供 (おぶく)



おみがきの様子

お磨き…仏具をお手入れすることで、花瓶や燭台等を真鍮磨きなどで磨きます。素材によっては磨き粉を使えないものもありますので注意してお手入れしてください。お内仏はいつもきれいにしておくように心がけましょう。特に仏事の前にはご家族そろってお磨きをしたいものです。

お内仏の名称

- ① 本尊…阿弥陀如来立像(絵像または木像)
- ② お脇掛…帰命尽十方無碍光如来(または親鸞聖人御影)
- ③ お脇掛…南無不可思議光如来(または蓮如上人御影)
- ④ 上卓…火舎香炉・華瓶・お仏供をのせます。
- ⑤ 前卓…花瓶・香炉・燭台(鶴亀)をのせます。

